

## 令和7年度(2025年度)熊本市心のアンケート結果について

## 1 目的

「熊本市いじめ防止等基本方針」に基づく「いじめの防止等(いじめの防止、いじめの早期発見及びいじめへの対処をいう。以下同じ。)のために本市が実施する施策」として、熊本市立小中高等学校及び特別支援学校の児童生徒を対象にして、無記名のアンケート調査を実施することにより、各学校が児童生徒の思いに寄り添い、すべての児童生徒が安心して、楽しく学校生活を過ごせる学校づくりに取り組むとともに、教育委員会におけるいじめの防止等のための具体的な対応策を検討・実施する資料とする。

## 2 調査期間

 令和7年11月25日～12月末日

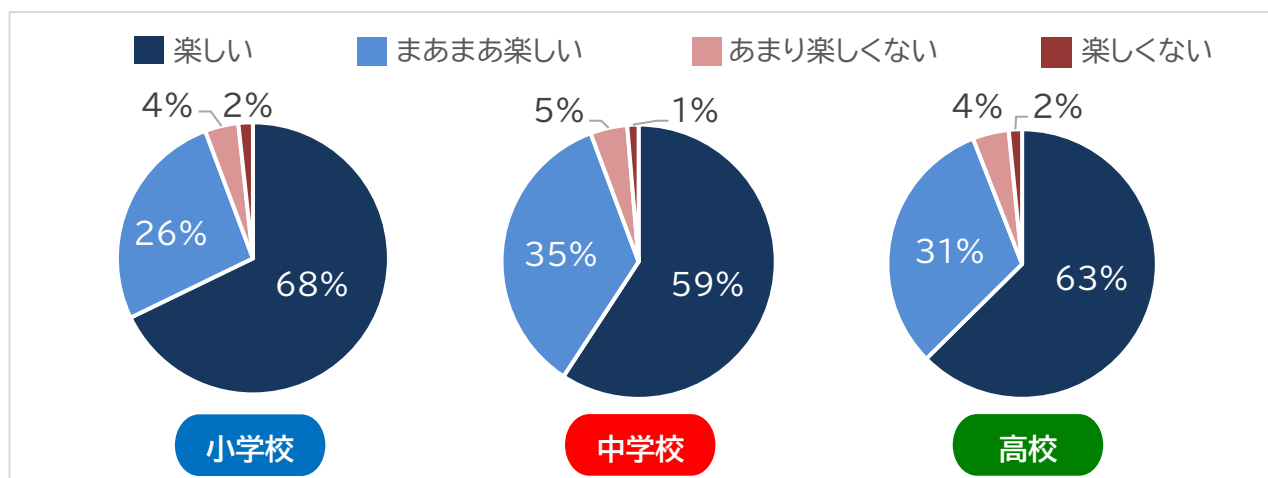
## 3 調査対象

 熊本市立小中高等学校・特別支援学校のすべての児童生徒

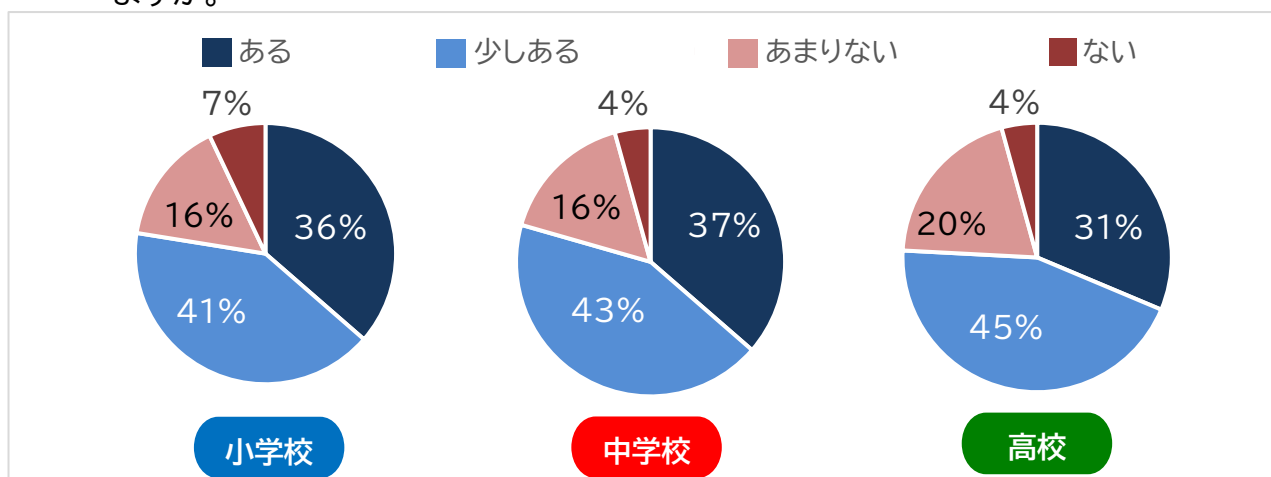
	小学校	中学校	高等学校
回答者数	38,170人	17,031人	1,382人
回答率	約96.2%	約86.8%	約91.7%

## 4 調査結果

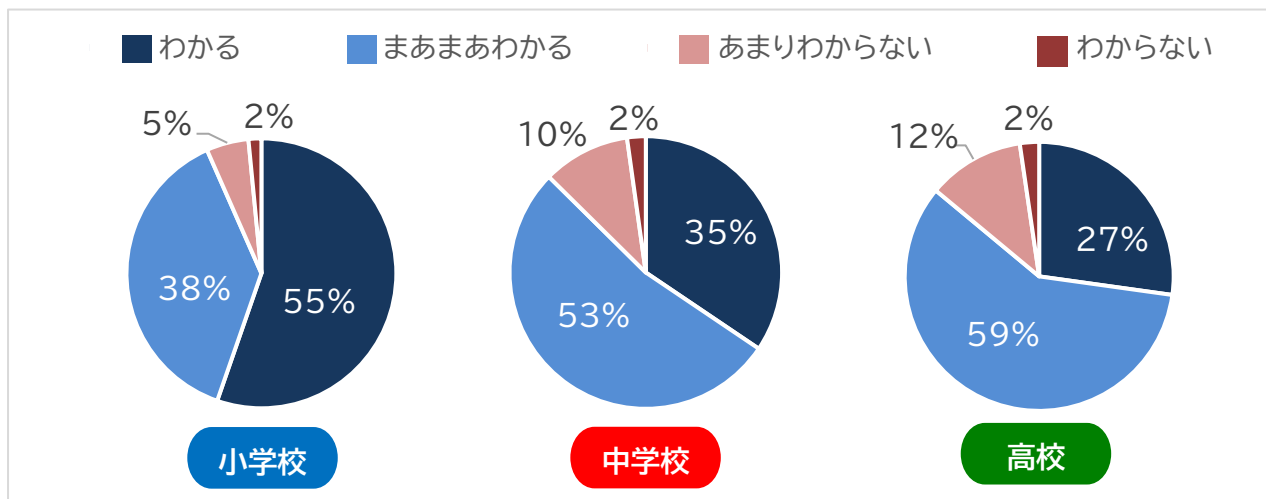
【問1】 学校は楽しいですか。



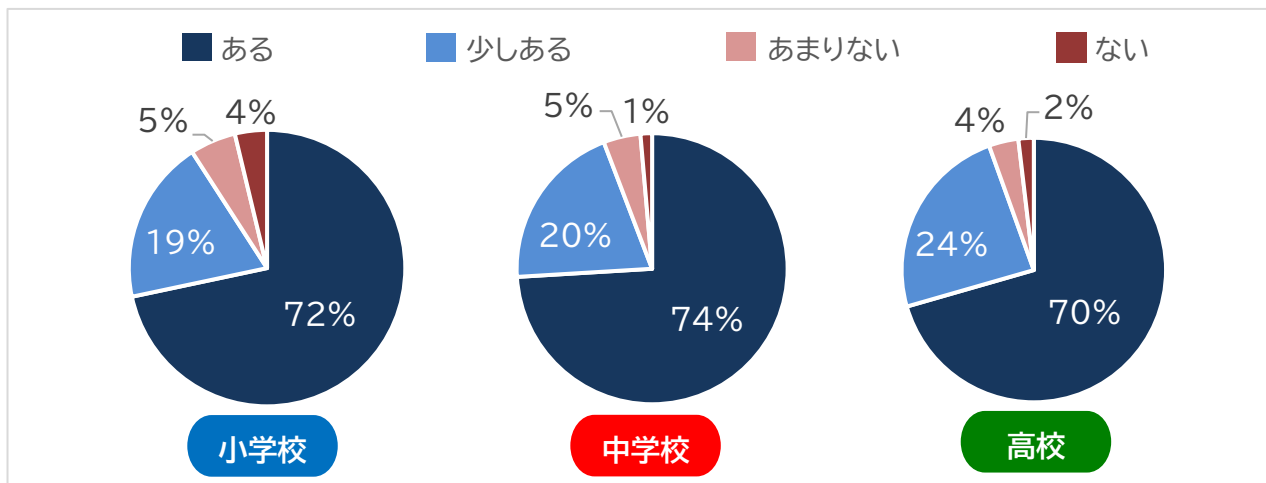
【問2】 授業や学級の役割など、学校生活の中で誰かの役に立っていると感じることはありますか。



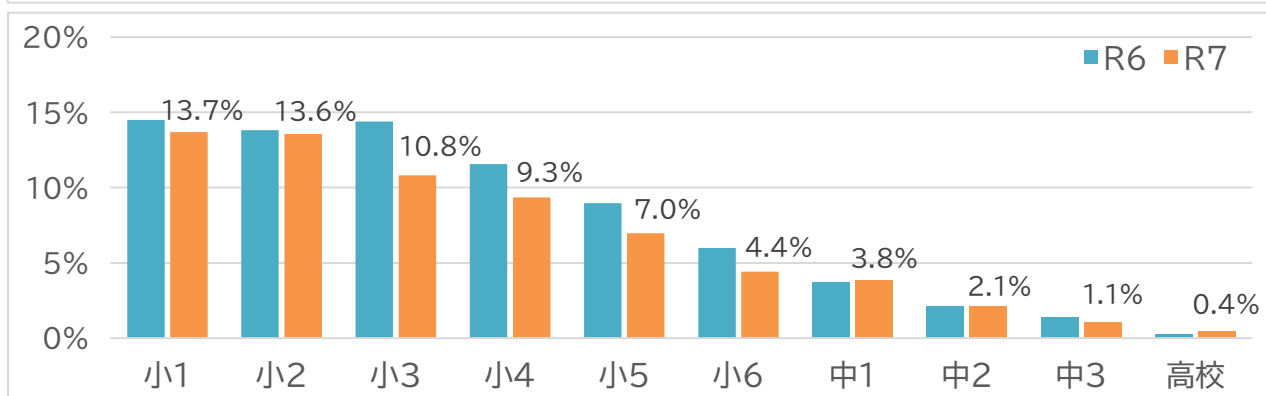
【問3】 授業はよくわかりますか。



【問4】 スポーツや音楽、趣味など、自信のあることや大切にしていることがありますか。

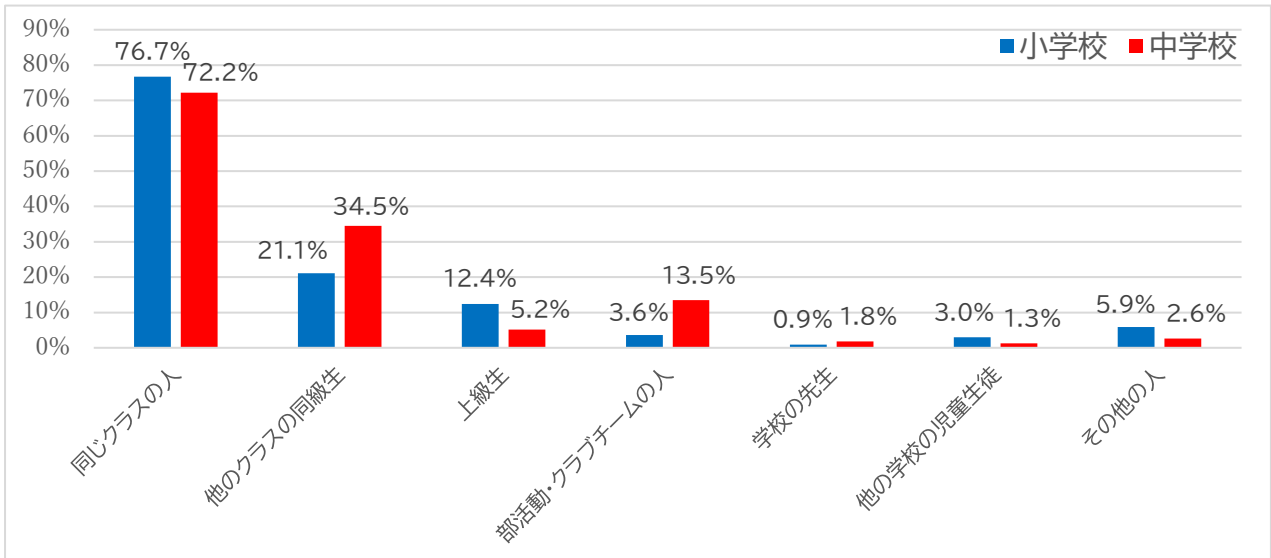


【問5】 今の学年でいじめられたことがありますか。

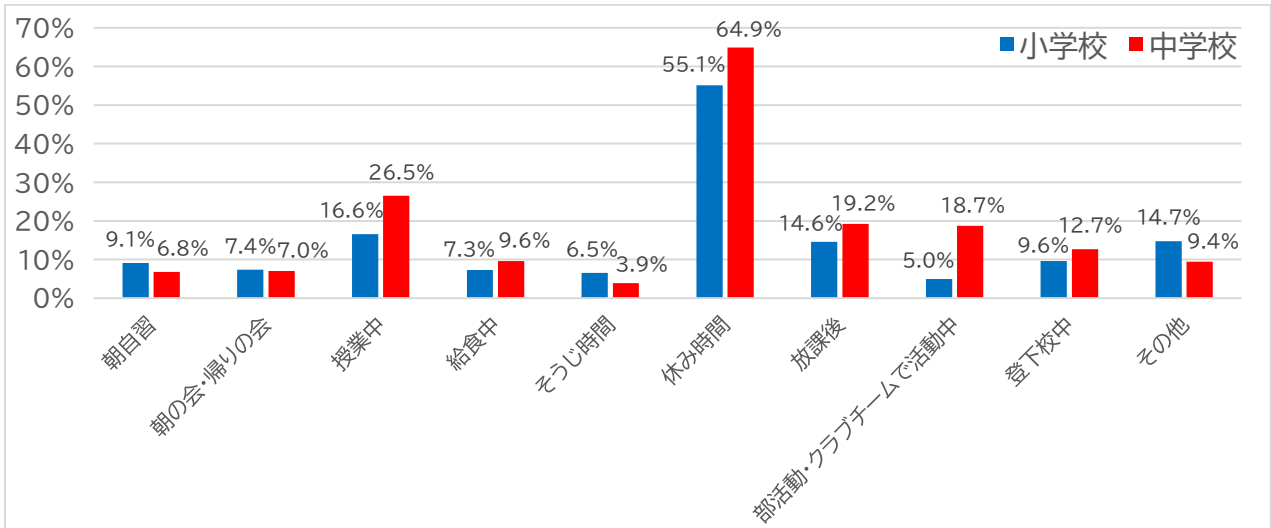


【問6～問13】は【問5】のいじめられたことがあると答えた児童生徒(小学校3729人、中学校394人)を対象とした割合  
 ※高校は該当生徒数が少ないため省略

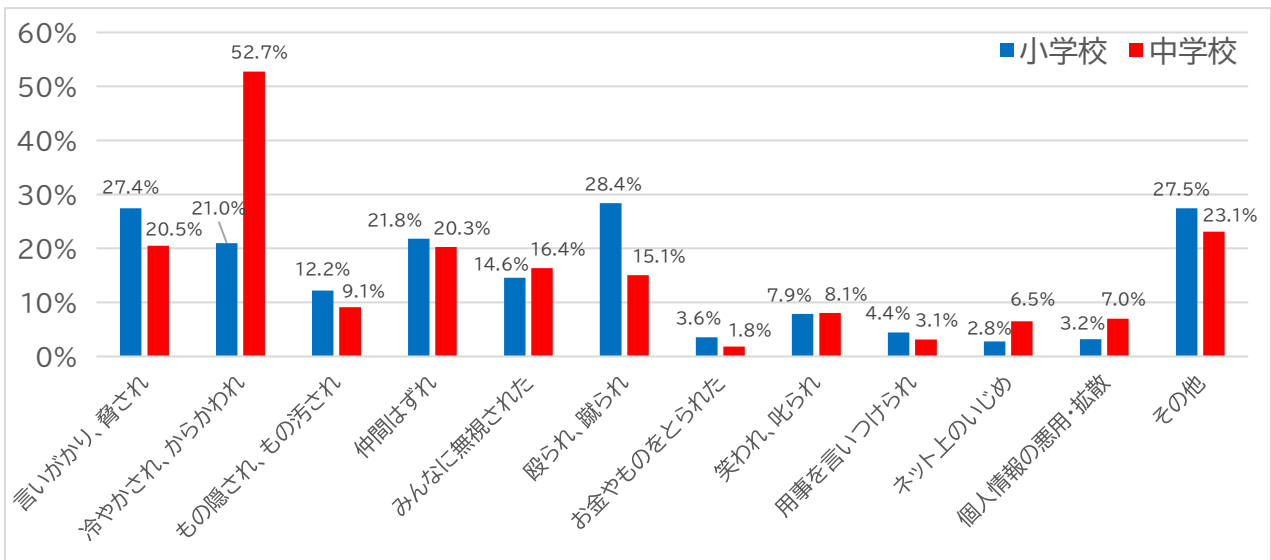
【問6】 誰からいじめられましたか。※複数回答



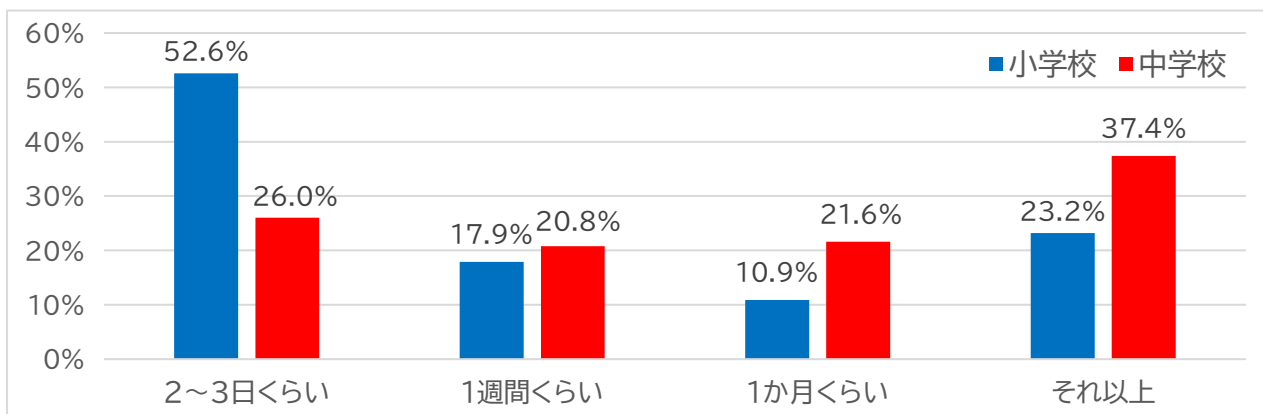
【問7】 いじめはどのような場面で起こりましたか。※複数回答



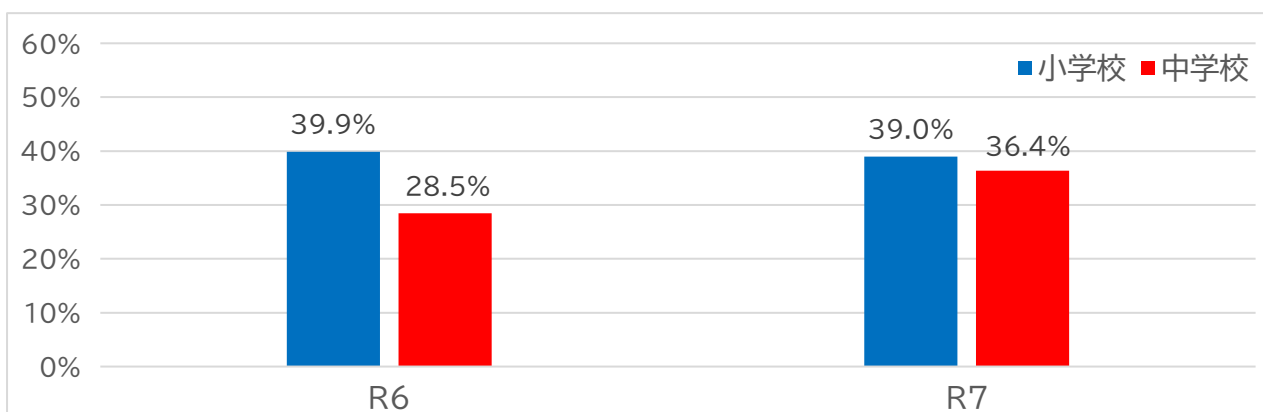
【問8】 どのようないじめを受けましたか。※複数回答



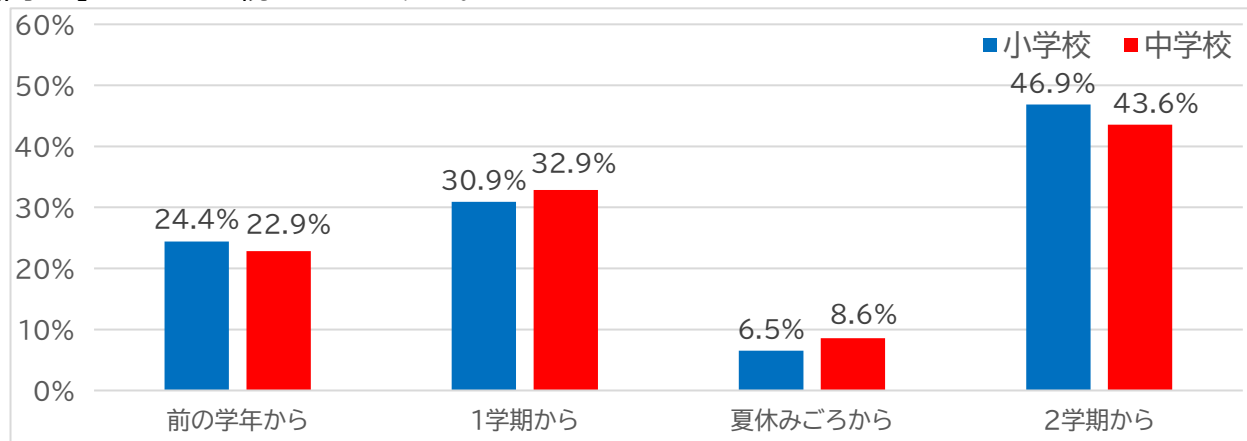
【問9】 いじめはどのくらい続きましたか。※複数回答



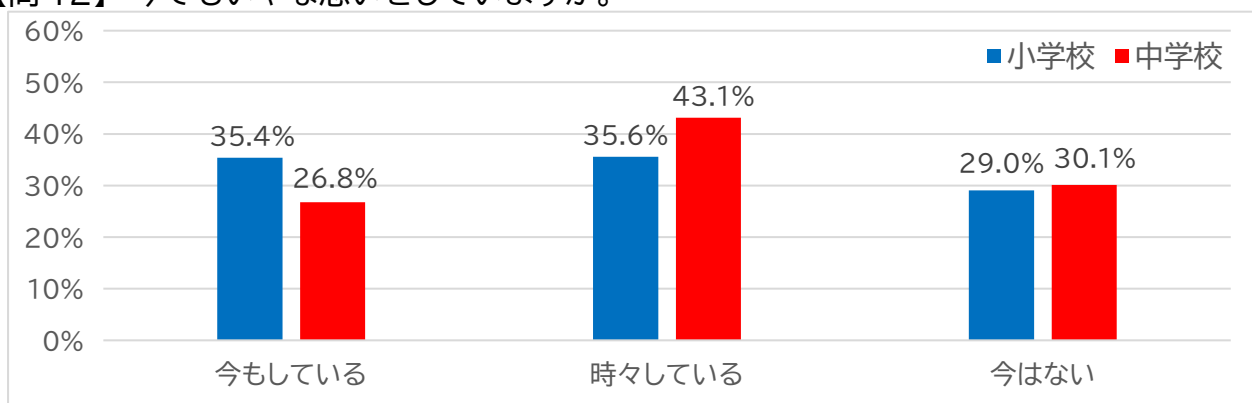
【問10】 今もいじめは続いていますか。(「はい」と回答した割合)



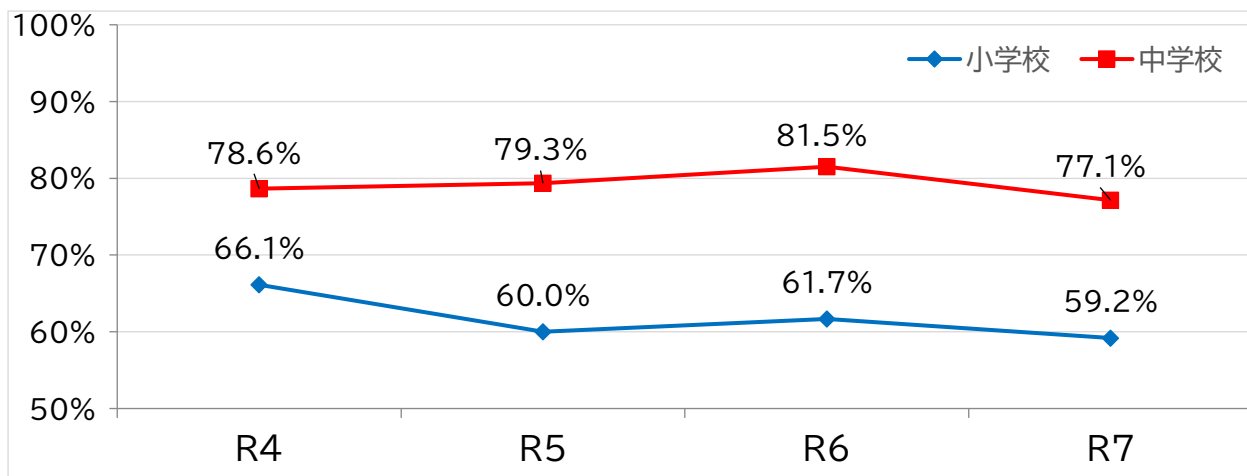
【問11】 いつから続いていますか。



【問12】 今でもいやな思いをしていますか。

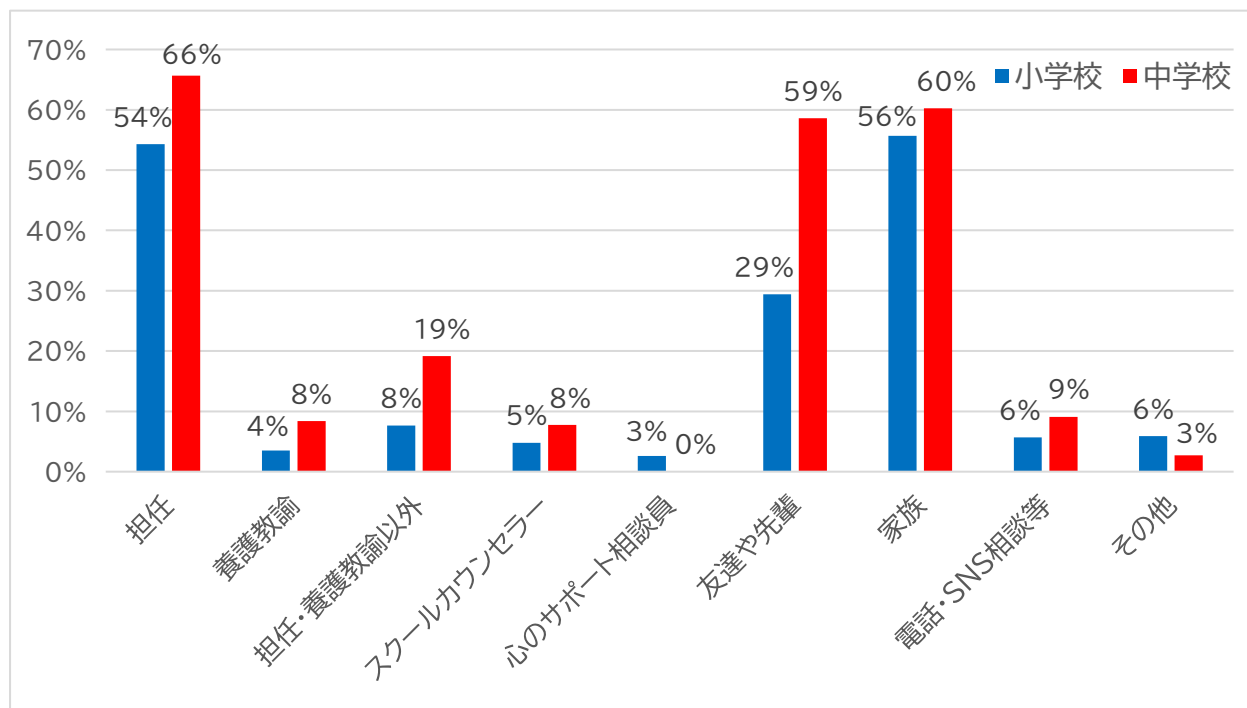


【問13】 いじめられたことを誰かに話をしましたか。(「はい」と回答した割合)

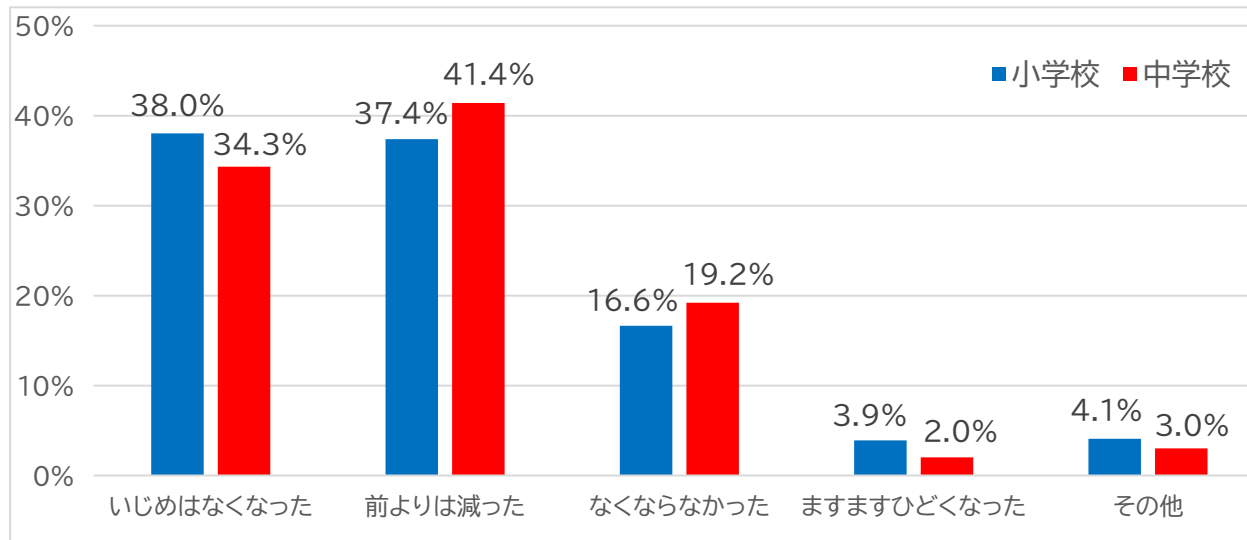


【問14・15】は【問13】のいじめについて誰かに話したと答えた児童生徒(小学校2207人、中学校306人)を対象とした割合

【問14】 誰に話をしましたか。※複数回答

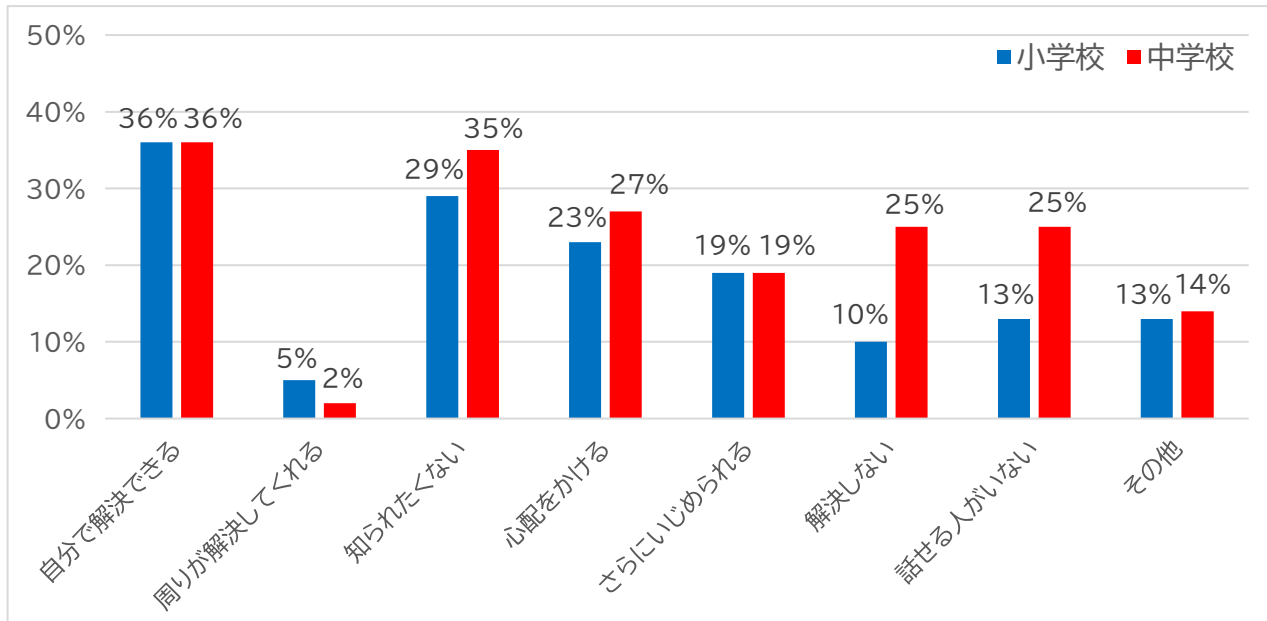


【問15】 話した結果どうなりましたか。

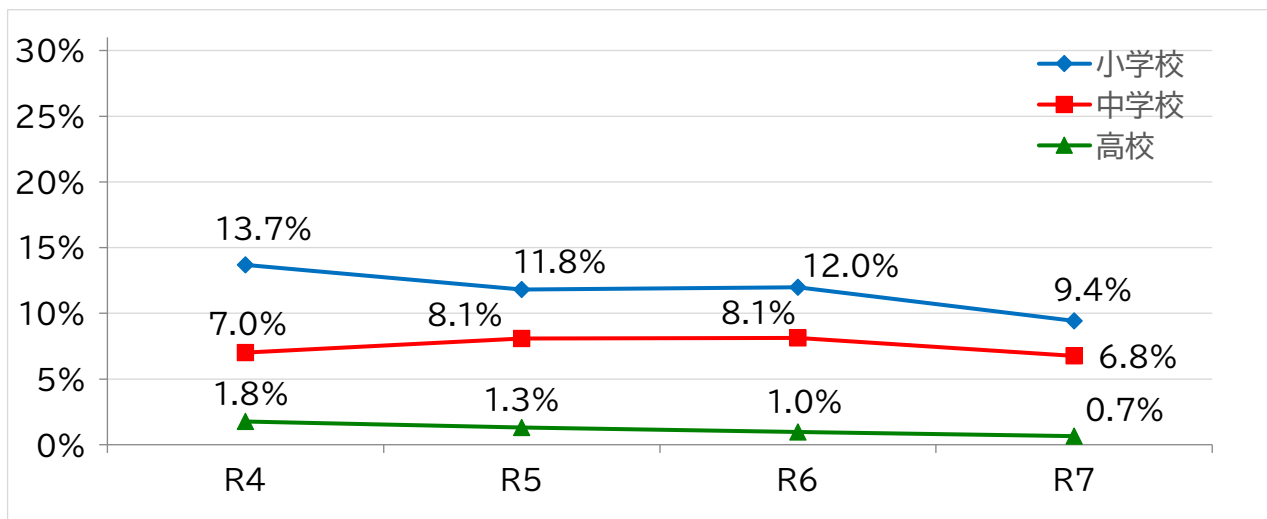


【問16】は【問13】のいじめのことについて誰にも話していないと答えた児童生徒(小学校1522人、中学校88人)を対象とした割合

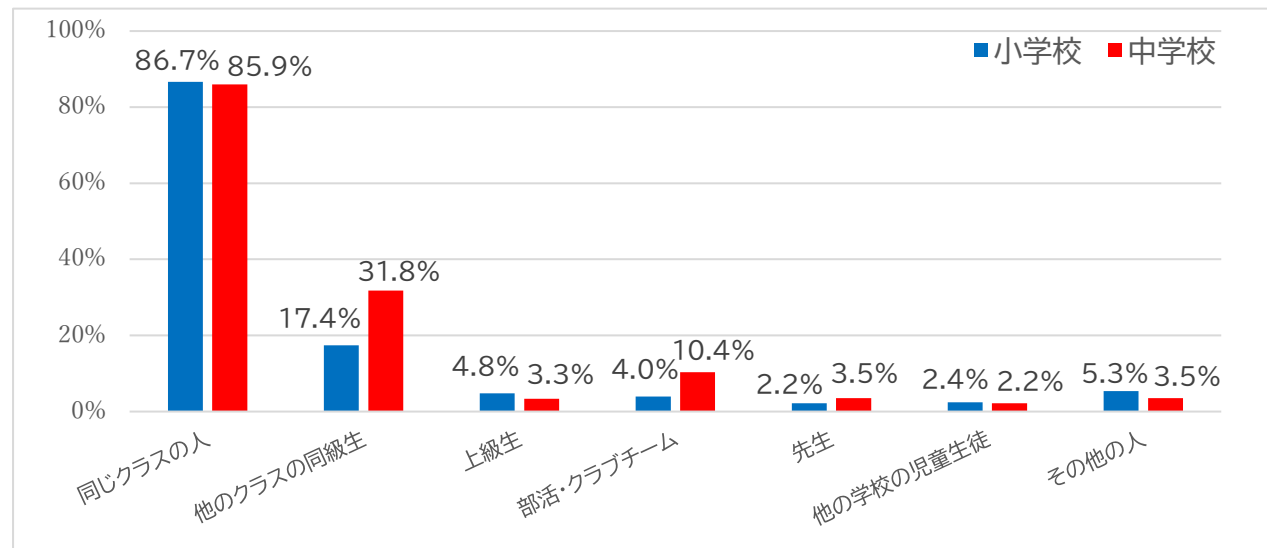
【問16】 なぜ話をしなかったのですか。※複数回答



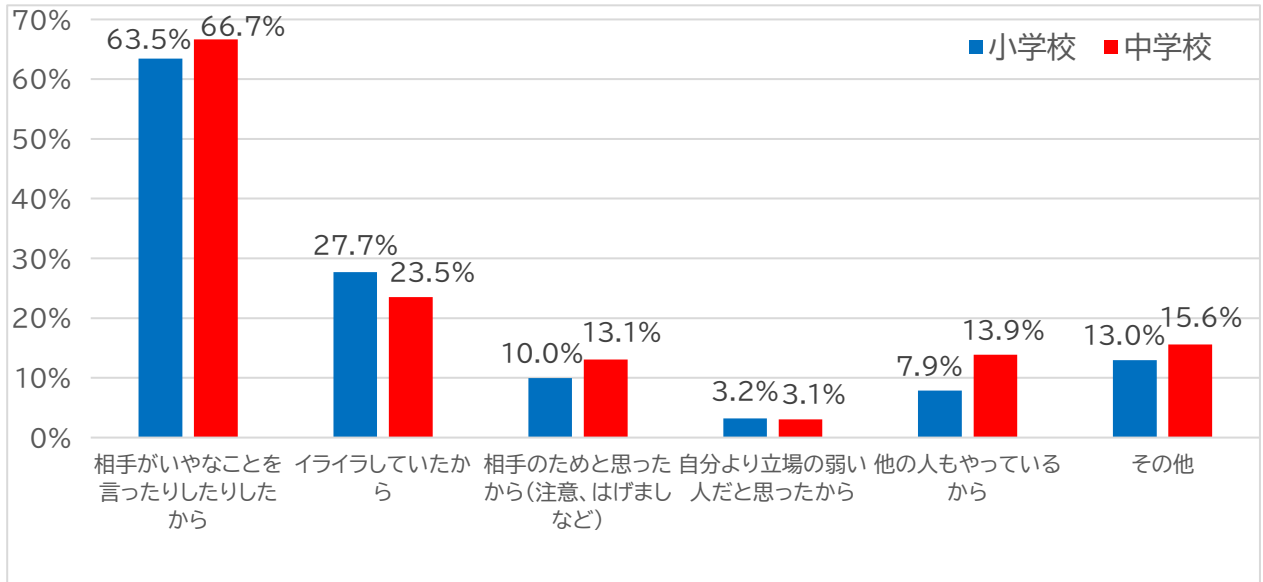
【問17】 今の学年になって誰かに嫌なことを言ったり、したりしたことがありますか。  
(「はい」と回答した割合)



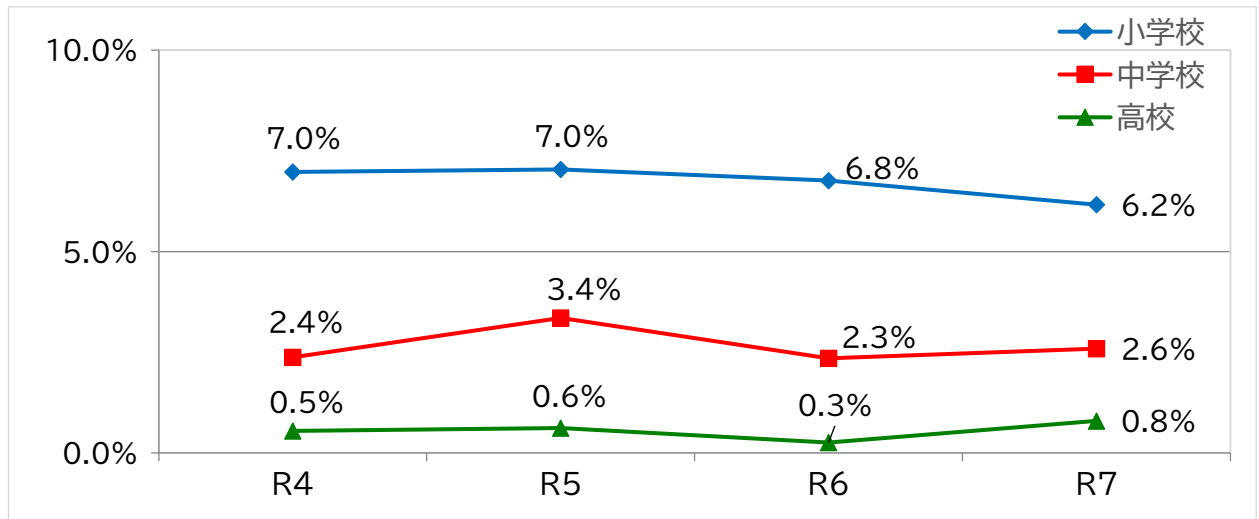
【問18】 誰にいやなことを言ったり、したりしたか。※複数回答



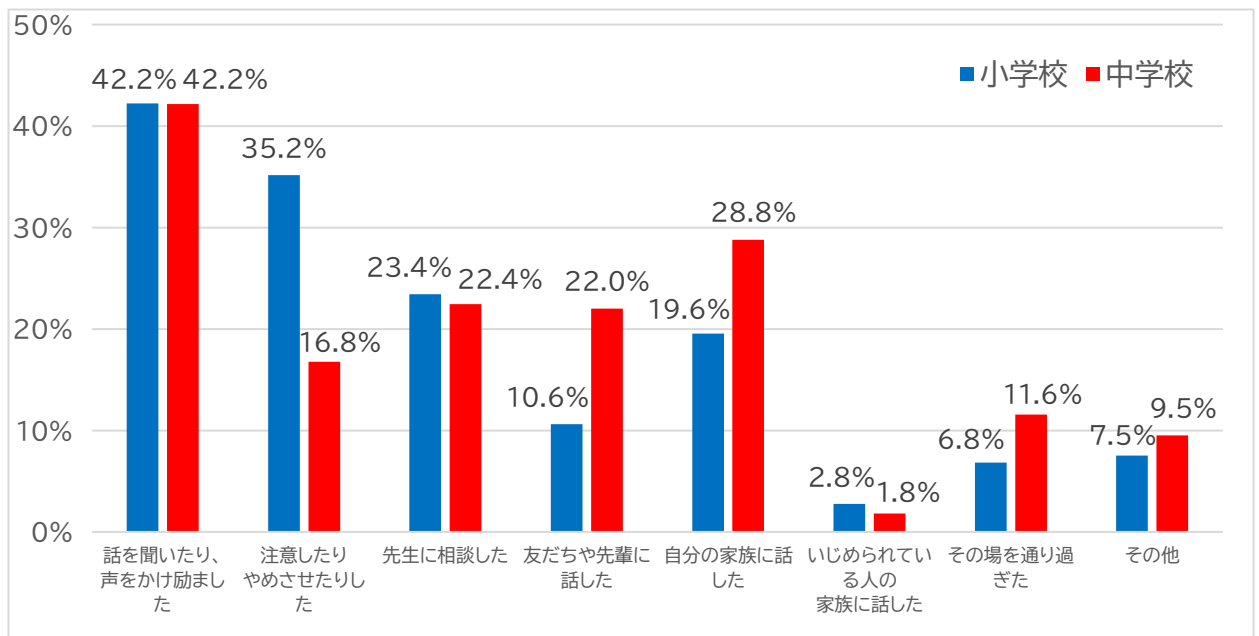
【問19】 なぜ相手がいやと思うようなことを言ったり、したりしたのか。



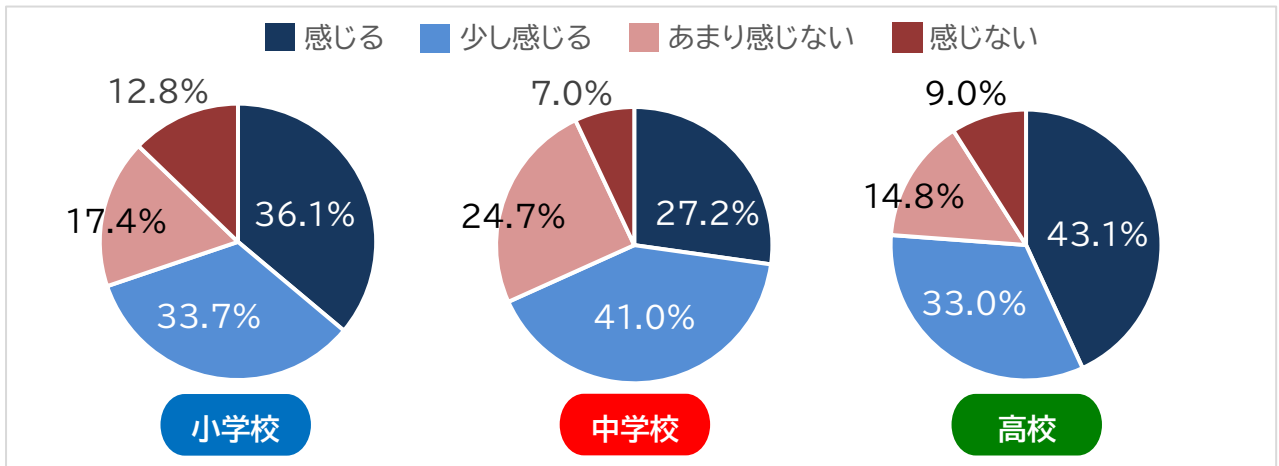
【問20】 今の学年になって誰かがいじめられているのを見たり、聞いたりしたことがありますか。(「はい」と回答した割合)



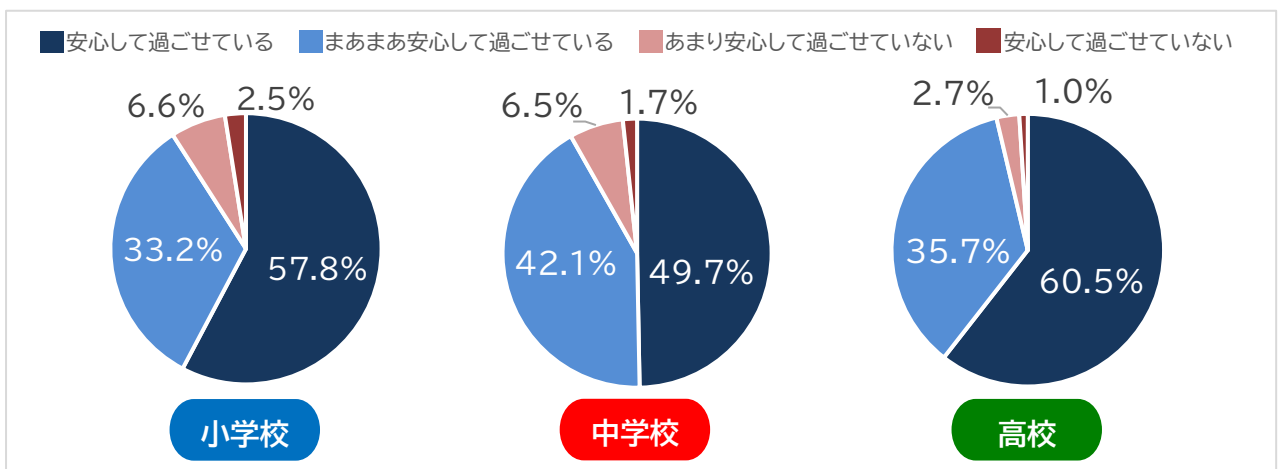
【問21】 いじめを見たり、聞いたりしたとき、どうしましたか。※複数回答



【問22】 あなたはクラスに「いじめをしない・させない」という雰囲気を感じますか。

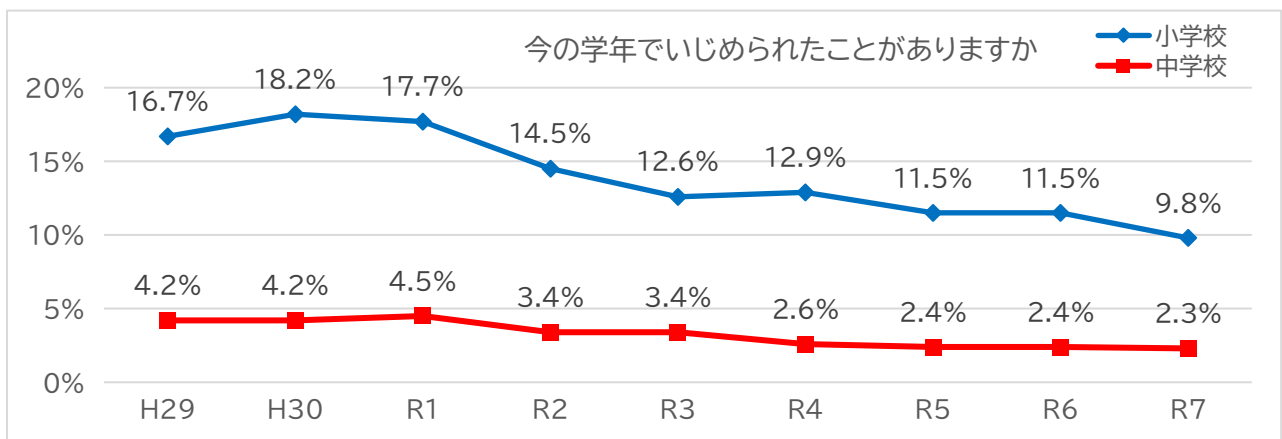


【問23】 現在あなたはクラスの中で、安心して過ごさせていますか。



## 5 アンケート結果の考察と課題解決に向けた取組

①【問5】「今の学年でいじめられたことがありますか」という質問では、徐々にいじめを訴える児童生徒の割合が減少していることが分かる。この傾向は、いじめの積極的な認知と早期対応、そして未然防止の取組が進んでいることの成果であると考えられる。



②【問7】「いじめはどのような場面で起こりましたか」という質問に対して、小・中学校ともに、「休み時間」に次いで「授業中」と回答した児童生徒の割合が高かった。この結果を踏まえ、授業中における児童生徒の言動や、タブレット端末の使用状況にも十分に注意を払う必要がある。

③【問9】「いじめはどのくらい続きましたか」という質問では、学年が上がるにつれて、いじめが長期化する傾向がみられた。そのため、いじめを早期に発見し、一つ一つの事案に丁寧に対応していくことが重要である。

④【問13】「いじめられたことを誰かに話をしましたか」という質問では、昨年度に比べて小・中学校ともに話した児童生徒が減少している。児童生徒が誰かに話そうと考えるためには、日頃から、さまざまな人間関係の中で信頼関係を築いておくことが不可欠である。併せて、児童生徒が適切に助けを求める力を育むために、SOSの出し方教育をいっそう推進していく必要がある。



⑤【問14】「誰に話をしましたか」の回答では、「担任の先生」と答えた児童生徒の割合が高く、担任への厚い信頼がうかがえる。担任がいじめの情報を把握した際には、一人で抱え込むことなく、学校全体で組織的に対応することが求められる。

⑥【問15】の「話した結果どうなりましたか」という質問に対して、「いじめはなくなった」もしくは「前よりは減った」と回答した児童生徒が7割を超えた。誰かに相談することは、いじめの解決や軽減に効果的であることが示された。一方で、約2割の児童生徒が「なくならなかった」または「ますますひどくなった」と回答した。話しても状況が改善しなかったという経験は、今後、誰かに相談することをためらう要因になると考えられる。

⑦【問16】の「なぜ話をしなかったのですか」という質問に対して、「話せる人がいない」と回答した児童生徒は、小学校で13%、中学校で25%にのぼった。こうした状況を踏まえ、毎年度各学校へ周知している「相談機関一覧」について、児童生徒が実際に活用できるよう、学校現場でのさらなる周知と活用促進を図っていく必要がある。

⑧【問21】の「いじめを見たり、聞いたりしたとき、どうしましたか」という質問では、「その場を通り過ぎた」と回答した児童生徒は、小学校で6.8%、中学校で11.6%であった。傍観者を生まないためにも、いじめを自分ごととして捉え、適切に大人へ報告できる児童生徒を育成することが重要である。

⑨【問22】「あなたはクラスに『いじめをしない・させない』という雰囲気を感じますか」という質問では、「あまり感じない」「感じない」と回答した児童生徒は、小・中学校で約3～4人に1人、高校では約4人に1人の割合で存在する。この数値は、次の【問23】「現在あなたはクラスの中で、安心して過ごせていますか」という問いへの回答にも影響を及ぼしていると考えられる。

- ・6月の「心のきずなを深める月間」においては、いじめについて子どもが考え、議論する授業実践等に取り組むよう、各学校へ周知した。今後も、いじめが起きにくい集団づくりを一層推進していく。
- ・今年度は、すなばコーポレーション株式会社より提供された「いじめ予防ゲーム」について、生徒指導主任・主事会においてワークショップ形式でご紹介いただいた。今後、こどもの権利サポートセンターと連携し、各学校での活用を推奨していく。
- ・毎月実施している「きずなアンケート」の確実な実施と結果確認を徹底し、いじめの早期発見に努める。